

国際関係概論 13

林 光

2007年9月27日 木曜日

0 はじめに

0.1 講義概要

後期は国際政治経済の話題を扱った後、ほぼ時系列的に世界の近現代史を概観する。

0.2 授業計画

後期

1. 制度の発生1：覇権安定論
2. 制度の発生2：レジーム論
3. 制度の発生3：世界文化論
4. 制度の進化1：貿易
5. 制度の進化2：金融
6. 前近代
7. 近代までの流れ
8. 勢力均衡と第一次世界大戦
9. 集団安全保障と第二次世界大戦
10. 冷戦：核抑止と代理戦争
11. 冷戦後：民族紛争と介入
12. グローバリゼーションと相互依存
13. 情報革命と非国家主体

0.3 成績評価方法

数回のレポート提出 + 試験

0.4 教科書・参考文献

教科書は特に指定しないが、以下を参考文献とする。

- 『アクセス国際政治経済論』（日本経済評論社）
『国際紛争 理論と歴史』（有斐閣）

1 制度の発生1：覇権安定論

1.1 覇権安定論

覇権安定論 Hegemonic Stability Theory
by Kindleberger, Gilpin, Krasner etc.

「国際経済秩序の安定には覇権国の存在が不可欠」
覇権国の衰退 国際経済秩序の不安定化

安定した国際経済秩序 = 国際公共財という想定

では公共財とは？

- ・非競合性
- ・非排除性

市場で取引できない！

国内であれば政府が供給。

では国際では？

覇権国が供給！

国際公共財の例

- ・開かれた貿易体制（公海の自由，所有権，度量衡）
- ・基軸通貨
- ・資本フロー
- ・平時の一貫したマクロ経済政策
- ・非常時の危機管理

1.2 覇権安定論への批判

1. 公共財への「ただ乗り」の可能性
2. 自由化は追随国の協力があって初めて可能¹
3. 経験的実証との不整合

¹裏返せば、国際経済秩序の安定は覇権国単独で実現させたわけではない = たとえ覇権が衰退しても不安定化にはつながらない！